

【No. 1】 商業施設の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 動線計画の基本は、分かり易くて、短いこと、また、効率を重視して異種の動線を兼ねるようにする
2. 車いす利用に配慮し、通路の段差は 2 cm 以内にする
3. 視覚障害者の白杖歩行に配慮し、通路側方にある壁面からの突出物は、下端 60 cm 以下、奥行 10 cm 以下にする
4. 白内障の高齢者の視界は黄変化するので、白地の案内板の標示の強調部分には、赤色などをつかう

答. 1

【No. 2】 物販店舗・飲食店舗の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 物販店の主通路は、POP や案内サインも活用しながら、分り易く店内を一周できるよう設定する
2. 物販店の通路幅の基本は、狭いところでも 90 cm 以上確保する
3. 飲食店の客席面積は、 $1.0 \text{ m}^2 \sim 1.5 \text{ m}^2$ / 席を目安に、業種・業態、客単価などを考慮しながら設定する
4. カウンター形式の飲食店は、カウンター内のスタッフからお客様が見やすいよう、カウンター内の床を客席の床より高く設定することを基本とする

答. 4

【No. 3】 防災関連の規定に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 延べ床面積が $1,500 \text{ m}^2$ 以上の物品販売店では、その店舗がある同じフロア階に 2 カ所以上の直通階段を設けなければならない
2. 幅員 5m 以上で天井高 3m 以上の地下街に店舗を設ける時は、店舗内の主

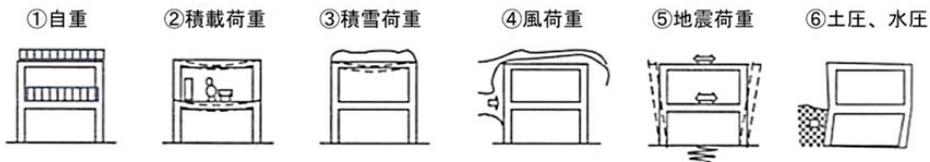
要な場所から地下街の出入口までの歩行距離が 100m以内でなければならない

3. 耐火建築物の地階や3階以上に店舗を設ける場合は、床・壁・天井などの主要構造物を準耐火構造にしなければならない
4. 延べ床面積が 1,000 m²以上の大規模木造建築物では、原則として 1,000 m²以内ごとに防火壁を設けて、空間を区画しなければならない

答. 2

【No. 4】 建築物に作用する荷重、外力に関する次の記述と下図の組み合わせのうち、最も適当なものはどれか。(※常時荷重=建築物に常に加わっている荷重 外力=ある現象が起きたときに加わる荷重)

1. 常時荷重：①、②、③ —— 外力：④、⑤、⑥
2. 常時荷重：①、②、⑥ —— 外力：③、④、⑤
3. 常時荷重：①、③、⑥ —— 外力：②、④、⑤
4. 常時荷重：②、③、⑥ —— 外力：①、④、⑤



答. 2

【No. 5】 空調・換気設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 個別ルームエアコンのヒートポンプ方式は、冷房のほか暖房もでき、特に寒冷地に適している
2. 冷凍機の効率は、COP（成績係数）の値により表される
3. 換気回数とは、1時間の中に室内の空気が入れ替わる回数のことをいう
4. 第一種換気方式は、一般居室や大きな機械室などで採用される

【No. 6】 電気設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 電圧降下は、電線の距離が長くて電線が細いほど大きくなる
2. 50AF/20ATのブレーカーは、50Aの電流が流れたときに遮断する
3. 商業施設におけるテナントへの割当電気容量は、一般的に原単位×面積で計画される
4. アウトレットボックスは、配線の分岐や接続に用いられる器具である

【No. 7】 給水・給湯設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 給水方式には、一般に、水道直結方式によるものと受水槽方式によるものがある
2. 上水道の給水栓からの飲料水には、所定の値以上の残留塩素が含まれていなければならない
3. 給湯設備には局部式給湯設備と中央式給湯設備があり、商業施設のテナント対応としては使用時間が異なることなどから中央式給湯方式が使われる
4. 商業施設では、厨房の冷蔵庫の冷却水やトイレの洗浄水などの雑用水系統と、浄水系統とに分ける

【No. 8】 防災設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 消火設備は、スプリンクラー設備のみをいう
2. 火災警報設備は、避難、消火の早期発見に重要な設備である
3. 非常警報設備は、在居者に火災発生を知らせ、迅速・安全を促す
4. 中央監視室の位置は一般に避難階か、直上または直下とする

答. 1

【No.9】 各種設備に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 商業施設のゴミ処理は、一般廃棄物として地方自治体が定めている
2. O2O(オンライン・ツー・オフライン)は、ネットと現実社会をつなげる
3. 大規模商業施設では、自然排煙設備とするのが基本である
4. 非常用エレベーターは、災害時に一般の人でも使用可能である

答. 3

【No.10】 音響計画に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

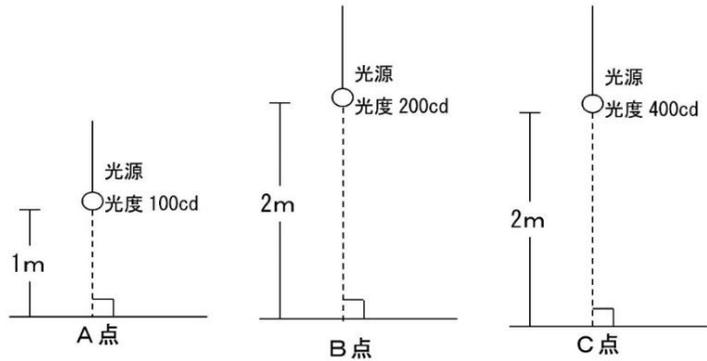
1. 音における聴感上の要素は、大きさ、高さ及び響きが三要素となる
2. 壁体における遮音性能は、透過損失の値が大きいほど優れている
3. 室内での騒音の許容値は、騒音レベルまたはNC値で示され、その値が小さいほど音楽堂・スタジオ等に適する
4. 吸音性能のよい壁体は、一般に遮音性能もよいとは限らない

答. 1

【No.11】 下図のような受照面上のA点・B点・C点における照度の大小関係に関する次の記述のうち、**最も適当なものはどれか。**ただし光源は全

て点光源とする。

1. $C > B > A$
2. $A = B < C$
3. $A > C > B$
4. $A = C > B$



答. 4

【No.12】 厨房計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 厨房では、業種・業態に応じた専門性が求められる
2. 厨房では、業種・業態や調理人の好みにより器具を選ぶ
3. デシャップとは下膳台のことで、位置及び幅が重要である
4. 厨房の床面積は業態にもよるが、一般的には全体床面積の3割程度が多いとされる

答. 3

【No.13】 バリアフリーに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 車いすを回転させるために必要なスペースは、170 cm×170 cm以上である
2. 車いすの出入りに必要な幅は、90 cm以上である
3. 障害者用トイレの内寸法は、2m×2m以上で、便座の周囲に手すりを設ける
4. 障害者や車いすの利用が想定されるスロープでは、勾配を1/5以上にす

【No.14】 商業施設の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 商業施設の計画とは、人々が経済活動を通して共生する姿を描くことである
2. 商業施設計画に重要な法制度として、バリアフリー法、障害者差別解消法などがある
3. 商業施設では、LANの環境整備が法的に義務付けられている
4. スマートフォンの普及は、商業活動と情報処理を考える重要な視点である

【No.15】 商業施設のコスト計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 商業施設では投資コストを抑え効率的運営をすることが基本であるが、顧客に対して効果的な建築的部位への効果的投資も大切である
2. ローコスト化のために、後方部分の仕上げのグレードを落とし、階高に関らず天井を省くことなどが必要である
3. 避難安全検証法によって、売り場効率を高めコストダウンをもたらすことが可能となる
4. 店舗無人化は店舗面積、商品や商品棚の数、追加機能の有無が導入費用を左右し、ランニングコストにも影響する